

平成29年度 福岡県へき地・小規模校教育研究大会

添田町立落合小学校

1 実施日 平成29年10月27日(金)

2 研究主題

自分の考えを持ち、表現できる児童の育成
～算数科における言語活動の工夫・充実を通して～

3 研究の特色・実際

算数科学習において、自分の考えを持ち、表現できる児童を育成するために、以下の2点から検証した。

(1) 着眼1：各学年の学習過程の共通化と工夫

全学年1単位時間の学習過程を「つかむ 見通す」「考える」「表現する」「まとめる 生かす」の4つの段階に統一した。特に、「考える」段階において、自力解決の時間を十分に確保するとともに、「表現する」(交流活動)に向けて、ペアやグループで自分や相手の考えを交流する場を位置づけた。



【ペアでの交流】



【グループでの交流】



【表現する段階(全体交流)】

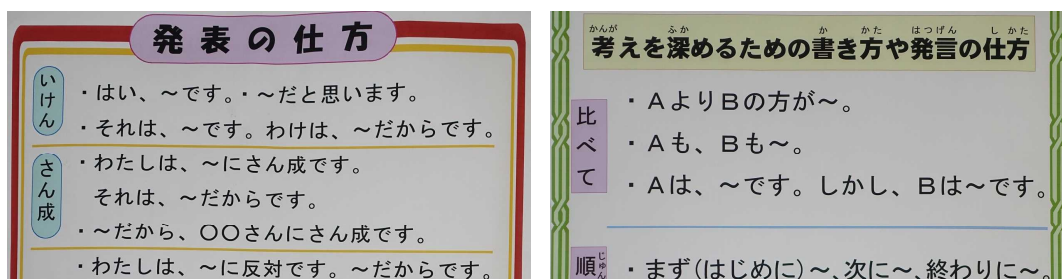
(2) 着眼2：「かく活動」「表現する活動」の工夫

① 目的、観点、方法の明確化

- ・何のために「かく活動」「交流活動」を行うのか
- ・本時のねらいと照らし合わせて、何をかけばよいか、何を話し合えばよいか
- ・児童が何をどのようにかいたり交流したりすればよいか

② 「かく・話す」スキルの定着

- ・低・中・高学年に応じた発表モデル等の教室掲示及び活用
- 各教室に「発表の仕方」「考えを深めるための書き方や発言の仕方」の2種類の掲示物をはり、日頃から意識を向けさせ、活用できるようにしてきた。



【「発表の仕方」と「考えを深めるための書き方や発言の仕方」(一部抜粋) 中学年用】

4 成果と課題

(1) 成果

- 学習過程を共通化することで、教師や児童にとって1時間の流れをイメージすることができた。特に、ノートにまとめる活動、発表に向けて個人用のホワイトボードにかく活動を積み重ねることにより、自分の考えをかく時間が短縮され、交流の時間を確保することができた。
- 「発表の仕方」等のモデルの掲示により、児童の発言の質が向上してきた。

(2) 課題

- 黒板にかかれたもの(はられたもの)について、1対他で対面形式で交流する場が多かった。黒板に集まって、意見を出し合うなど、少人数の特性を生かした交流も考えていく必要がある。